

保育おおさか

平成15年4月1日 第332号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

『それぞれでいいんだよ』

「認めてあげられる」 育児相談に

育児相談員
フォローアップ研修

育児相談員「認定証」取得者のためのフォローアップ研修が、3月4日、ホテルアウイーナ大阪で行われた。今回は、育児相談の原点を見つめ直し、初心に戻ることを目的のひとつとし、育児相談研修の講師である西田晃さんに講演を、南陽子さんと石原順子さんにそれぞれファシリテーターとしてご協力いただいた。



西田 晃さん

14年度フォローアップ研修は、育児相談事業スパーバイザーの西田晃さんから「育児相談・子育て支援観の確立」というテーマで講演をいただいた。

育児相談の概観として、
①相手を知ること②自分に気づくこと（自分を知る）
③両者をつなぐ自覚（相手と自分をどうつなぐか）の、この3つを基本として進められた。

まず「相手を知る」ということで、自分が「育った」時期と、今「育ちつつある者」の時期では、それぞれの現象がちがってきている。年々移り変わりが早い時代になっているのに、人間は変ってきている時を認めようとしていないのが、現実だということである。それをふまえて、本場にある事例を話された。

あるお母さんが、子どもの4か月検診に、赤ちゃんを連れて行かなかったそう。理由は、保健所からの通知にそのことを書いていなかったからだ、そのお母さんは怒っていたそうである。

育児相談でも「どうしてこんなことまで聞くのか」と思うことも多いが、それは、社会全体が幼児化して

いるからだとも述べられた。われわれの育児相談業務で、どのように仕事をしていけばよいのかという点での基本は「相手を認める」ことである。すぐにいいとか、悪いとか言わないこと、それが大事であると語られた。

さらに、虐待されて育った人は認められたことがなく、愛されたこともない立場にあると述べられた。いままでの研修をふまえ、



日々の悩みについて共感し合う参加者

一本のビデオを見た。その内容から問題提起をし、続けてグループワークを行ったが、提起に関しての討議よりも、やはり現在かかえている悩みの方向に話しは進み、それぞれ力のはいつたグループワークとなった。

その後、グループ別に話し合いの結果を発表した。発表後、西田先生の「必ずしも正解があるわけではないので」との言葉に、ますます育児相談のむずかしさを感じた。

最後に保育士は、若いお父さん、お母さんに、「それでいいんだよ」と言って、すべてを「認めてあげられる」という成熟した大人の立場にあるのだ、ということが印象的でした。私自身もその言葉に自問自答しながら、これからは育児相談のサポートをしていきたいと改めて思った。

（脇浜保育園 M・H）



人間の成長は、必ずしも一つの方向からの光では判断できない。人間には普通

人との孤独を考えたりはしない。仲間のいない孤独な状態から解放を常に考えています。しかし私は、ある人と出会い、その人の感性を感じ共感することがありました。その人は下を向いてものを言わない孤独のポーズに積極的な光と意味を探り出していました。それは自由であること、内へ向かうことに、自身を発見することのために欠かせない条件であり、その人の今、その成長の過程にしか起こらないことで、「人と交わる時」と「孤独でいる時間」の双方を経験し、自分の考えをしっかりと持ち、独創性豊かに育とうとしています。

その時私は、その心の姿を受け止め、心から応えられる感性を持ち、暖かくエールを送り続けたいと思えました。そのことが、広い心を持つ子どもを育むことにつながるのではないのでしょうか。今年も一年間子どもたちの育みを見守っていきたくと思っています。

（K・K）

保護者に「育児のノウハウ」を

—地域子育て情報交換会—



地域子育て情報交換会が、2月27日大阪社会福祉指導センターで行われた。大阪府児童家庭室の酒井主査から、子ども総合プランを中心に、支援センター事業の歴史から今日の状況と課題をお話いただき、続いて、神戸親和女子大学の寺見陽子教授から、求められる子育て支援とは何かについて、教授自らが行っている子育てサークルの事例を交えながら講演いただいた。

昨年までの事例報告中心のものから、これからの地域子育て支援センター事業の進むべき方向性を、参加者自らで考えていくグループワークを中心に進められた。講演とグループワークを通して、「現在の課題」「保育士としての対応」「グループワーク」「結論」に分けて報告する。

求められる在宅支援

現在の問題点

年々増加する保育所入所待機児童数の解消に、1日も早く対応できるような努力しているが、実際はなかなか難しい。

現代社会は、虐待・いじ

得られない親の育児負担は大きく、育児不安・育児ノイローゼによる虐待件数は年々増えている。その多くは、就労していない親、若年の親、高齢での第1子に戸惑う親、また、子どもが多く経験豊富な親でさえ、子育てをこなすことに精一杯にならざるをえないケースがあげられている。

保育士としての対応

求められる子育て支援をめぐすにあたり、私たちは何をすべきなのか。まず、地域性により、求められる支援の形の違いを知ること、ニーズに合わせて支援の方法を考え、取り組むことが第一歩である。子どもとの関わり方を知らない保護者が多い中、年



府児童家庭室家庭支援G
課子育て支援G
総括主査 酒井雅司氏

め・ひきこもり・登校拒否・学級崩壊・小1プロブレムなど、今や珍しくない深刻な問題を抱える育児社会であるが、これらは子どもにも原因・責任はない。

少子化・核家族化により、子育て情報や周りの協力が

中から、新しい関係作りが



神戸親和女子大学
教授 寺見陽子氏

齢に応じたノウハウを知っている保育士が、それを提供する役目となる。



グループ討議を行う参加者

グループ討議では次のような事例が出された。

一時保育・園庭開放・育児相談の場を提供しているが、育児相談の利用数は少なく、気軽に利用しにくい状況にある。

育児に関心が薄く、一時保育を利用する保護者もいるため、利用が途切れるとこちらから連絡を入れ、コミュニケーション

日々の保育の中で、私たちが各年齢に合わせた接し方で、なにげなくしている子どもの自我を育てる要素（同型性・相補性）を含むやりとりと、当たり前前ややりとりを育児の中で丁寧に行ってあげることの大事さを保護者に伝える。そのことが、保護者の育児性を高め、子どもの「生きる力」と「自我を育てること」につながるということを知らせる。

グループ討議

今後、子育て支援事業へ取り組む園が増える中、グ

をとりようとしている。一時保育児と在園児との交流で、家庭にない異年齢の関わりを経験する場や、その姿を保護者に参観してもらい関心を高めてもらう。育児教室の実施の形態とし、遊びを通して子どもとの関わり方を知ってもらうほか、子どもが保護者と離れても安心して過ごせ楽しめる空間の中、外界や自己への信頼・自律感を育てる場とし、保護者に子どもの姿を知らせ、保護者に育児のエッセンスを与える役割をする。

(3面へつづく)

(2面からつづく)

保護者にも、子どもと離れてのコミュニケーションの場を提供し、誰でも気軽に話しかけられる工夫として、胸に親子の氏名を記入した名札をつけている。

一時保育は口こみで広がり、地域の人が利用しやすくなっている。この一時保育で、地域における家庭内育児の保護者の姿と現状が見えてきたという。

結論

保育園に通う子どもの保育充実支援だけでなく、地域の親子にも100%支援できることが求められる現代社会。私たちのできる支援の形とはどんなことかを深く考え、多くのヒントを得ることができた研修であった。(稲田保育所 C・O)

常任委員会報告

(平成15年3月11日開催)

- 平成15年度大阪府予算案について
- (府児童家庭室家庭支援課、施設課)
- 第三者評価事業の進捗状況について
- 保育士会からの報告
- 専門職に不可欠な

【全国保育士会倫理綱領】

- ①子どもの最善の利益の尊重
- ②子どもの発達保障
- ③保護者との協力
- ④プライバシーの保護
- ⑤チームワークと自己評価
- ⑥利用者の代弁
- ⑦地域の子育て支援
- ⑧専門職としての責務

が策定されました。
育士の責務と倫理」について講演予定。講師は柏女霊峰氏(淑徳大学教授)。

「総会」案内

- 保育部会
日時：5月21日(水)
午後1時30分～4時
会場：指導センター5階ホール
- 保育士会
日時：4月25日(金)
午後2時～4時
会場：指導センター5階ホール

内容：総会議事

記念講演
テーマ「保育と保健」
講師：北畑英樹氏
(医学博士)

■今回からは、前二回とガラリと調子を変えて、子育てになぜ笑いが必要なのかについて、アカデミックな話をしたいと思います。

まずは「なぜ笑いが健康にいいか」という、他では聞けない医学講義から。■話のスケールは大きく、この地球に生物が誕生した時点から説き明かさねばなりません。

海で海の成分に科学的変化が起こって、小さい小さいタンパク質の単細胞藻類というモノができたのが生命の誕生だと、オパーリンという学者は言っています。

われわれの血液や羊水などは海水とはほぼ同じ組織をしているのです。■さて、海に浮かんだ、われわれの祖先の祖先の祖先である単細胞藻類は、浮かんでいるだけでは退屈です

そうだ、このリズムに合わせればラクじゃなにかと。■では、海の波はどうして起こるか。地球物理学の教えるところでは、それは、地球の引力、月の引力、偏西風、水の表面張力などが複雑に関係して、一本の数字なのです。

その元の元は18、すなわち息なのです。ですからわれわれのすべての生命活動は始まっているのです。■ここから、どうして笑いの効用へ話が進むのかと思われれるかも知れませんが、紙面の関係で、今回は18、36、72、144と、息をす

「笑いの効用」

①

落語医者の保育うだうだ話

そもそも地球上に生物が発生したのは、何億年か何十億年か、いずれにしてもボクの生まれるずっとずっと前の遠くなるほど昔のことだそうなんです。

それまでは地球は海と陸だけで、生物はいなかったのです。そんな海へカミナリさんが落ち、その電気的な刺激

のは植物に、あるものは動物に、そして、その動物の一種としてわれわれ人間が出現したというワケです。

とイコール生きることと始めたこととあり、これがすなわち生物が発生したということなのです。

では、どのように息をしたら一番ラクかと、しばらく思案をしていたわれわれの祖先は、海に波があることに気がつきました。

その祖先の努力に感激して、その18を倍にした36度の体温をわれわれに与えて

間に18回打つのです。そこで、われわれの祖先も、それに合わせて一分間に18回、息をすするようにしたのです。

この祖先の努力に感激して、その18を倍にした36度の体温をわれわれに与えて

あると、生きていく根本であるということだけを記憶していただいて、あとは次号のお楽しみとさせていただきます。

(英)

平成15年度共同募金配分申請の受付が、5月1日から5月20日の期間に行われます。

- 対象：社会福祉事業、更生保護事業、その他社会福祉を目的とする事業を営営するもの
- 申請書類の配布：4月21日(月)から

申請を希望される社会福祉法人・社会福祉団体等は、ホームページを閲覧いただくか、もしくは、大阪府共同募金会までお問合せ下さい。

TEL 06-6762-8717 FAX 06-6762-8718
URL <http://www.akaihane-osaka.or.jp>
E-mail ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp



平成15年度
=園児のための総合保障制度=

■昨年度実績数

大阪府社会福祉協議会保育部会では、A I U 保険会社の協力で、「園児のための総合補償制度」を実施しています。

平成14年加入者数は8155名様と大変多くのご加入がありました。

■事故発生状況

昨年度の事故発生状況は総数で、530件となっております。傷害、賠償事故とともに、年々増加傾向にあり、ますますこの「園児のための総合補償制度」の重要性が認識されてきております。

■今年度の実施について

今年度の加入タイプも昨年と同じ、Aプラン7千円、Bプラン5千円の2タイプから選択していただけます。保障内容としましては、園児またはそのご家族が、あやまって他人にケガをさせたり、他人の財物をこわして、法律上の損害賠償責任を負った場合、園児の扶養者が、不慮の事故で亡くなったり、重度後遺障害が生じて園児が扶養されなくなった場合、また、園や通

園途上の事故だけでなく、交通事故、レジャー中の事故など、さまざまな事故が対象となります。

各園にはすでにパンフレットが配布されていると思いますが、今年度も加入依頼書のみのお返しをお願いいたします。

保護者や子どもたちの安心プランとして、今年度もお手数をおかけいたしますがどうぞよろしくお願いいたします。

■当制度の引受保険会社

A I U 保険会社
大阪市中央区南本町
3-5-14

保育園をたずねて

304

泉佐野市

ひねの保育園

ひねの保育園は、JR日根野駅から徒歩5分、海や山まで約4km、関西国際空港にも近く、交通の便の良い保育園です。園の敷地は広く、園舎が南向きになっています。そのため、日当たりも良く、冬でも暖かい感じがありました。



人間の生涯教育の知育・体育・徳育を中心に、バランスのとれた保育を実践し、明るくほがらかで、思いやりのある心身ともに健全な

子どもを育てることを目標にされています。特別保育

として、専門の先生による幼児体操や英会話を実施され、特に鼓笛指導は、忍耐力・協調性・音感を養うため、4月から練習を始め、10月の運動会、11月の鼓笛大会に出場され、今年で19回目になられるそうです。

近隣の小学校・中学校・高等学校との交流会や、老人ホームの慰問を通じて地域に密着し、地域の人々に愛される保育園になるよう頑張っておられました。

少子化対策

プラスワン

男性を含めた働き方の見直し編

つくりましょう！
安心して子育てのできる職場を

目標値

育児休業取得率
男性10% 女性80%

その1) 働きたいと思う人すべてがとれるように！

具体的には3つの取り組みについて目標値を設定しています。

小学校入学までの勤務時間短縮等の措置普及率25%

子どもの看護休暇制度普及率25%

その3) 働きながら子育てができるように！

この3月末に、保育部では、その明るさと確実な仕事振りに信頼感が大変高かったと聞いている。

まさに縁の下での力持ちだったと思う。今後の新たな人生のスタートにエールを送りたい！

あの人
この人
あの人

設1地域支援事業により、一層子育て支援が活発化されるだろう。事務局の徳丸さん引き続きよろしくね。

想像以上のスピードで行っているわが国の少子化。その流れを変えるために、政府として従来の取り組みに加え、もう一段の少子化対策（「少子化対策プラスワン」）を講ずることになりました。

気などに備えて！

発行所
大阪府社会福祉協議会
保育部
TEL 6762-9001
高岡編水
土勝